

# 保険・年金 フォーカス

## 生命保険市場の基礎データ (2015年版)

### 【アジア・新興国】 中国保険市場の最新動向(22)

保険研究部 准主任研究員 片山 ゆき

(03)3512-1784 katayama@nli-research.co.jp

#### 1-生保収入保険料の推移

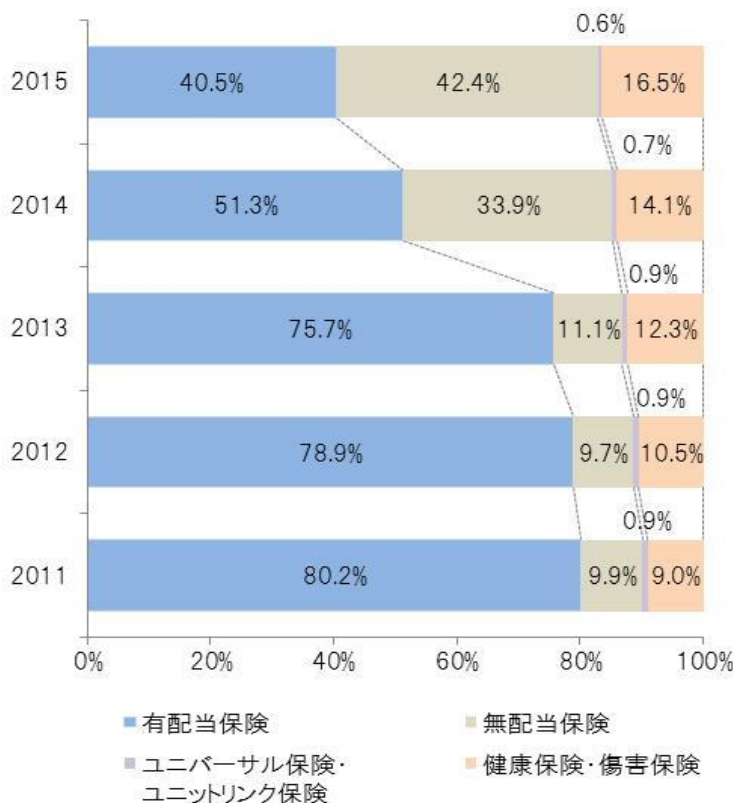
2015年の中国の生命保険(健康保険、傷害保険等を含む)の収入保険料は、前年比25.0%増の1兆6228億元(日本円では約30兆円規模)であった。直近5年間の収入保険料の動向は、銀行窓販の規制、会計基準の改訂の影響を受けた2011年を底に、毎年増加を続けている。収入保険料の増加率が20%を超えたのは、直近では2010年の前年比28.7%増以来で、収入保険料の規模はこれまでで最大となった。



(注) 中国では、保険を人保険(「人身保険」)、物保険で分けている。人身保険は、生命保険(定期、終身、養老)、健康保険(医療、疾病、介護、所得保障など)、傷害保険、年金保険を指し、ここでは、広義の生命保険としてこれらの保険の収入保険料(人身保険)の合計を掲載している。

(出所) 中国保険監督管理委員会ウェブサイトの公表データより作成

## 2-商品構成の推移〔収入保険料ベース〕



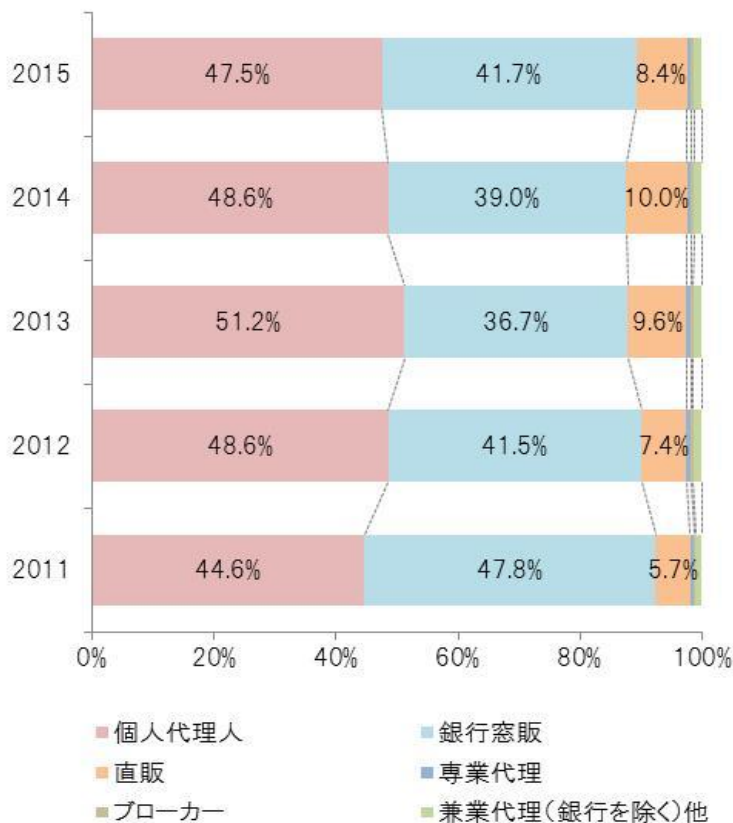
(出所) 中国保険市場年報より作成

2015年の商品構成(収入保険料ベース)は、無配当保険が前年より8.5ポイント増加し、42.4%と最も多くを占めた。次いで、有配当保険が前年比10.8ポイント減少し、40.5%を占めた。無配当保険は構成比において初めて有配当保険を上回った。

2014年、2015年の無配当保険の構成比の増加については、2013年後半の予定利率の上限緩和措置に伴う、商品競争力の向上が大きく影響している。

また、医療保険を含む健康保険も構成比が増加しているが、2014年に年間2400円を上限とした所得控除の導入が発表されており、国としても医療保険への加入インセンティブを高めている。

## 3-販売チャネル構成の推移〔収入保険料ベース〕



(出所) 中国保険市場年報より作成

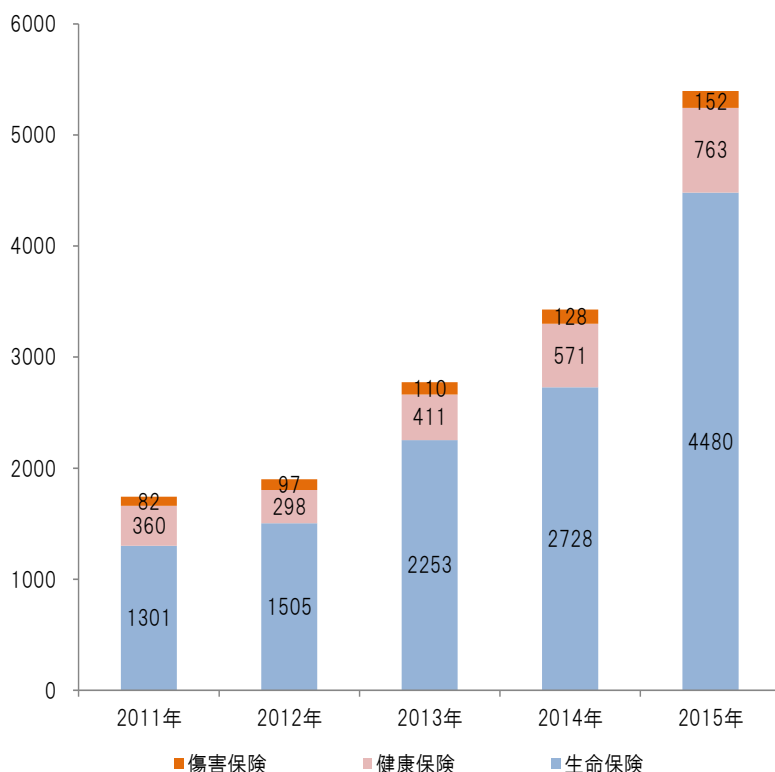
2015年の販売チャネル構成(収入保険料ベース)は、個人代理人が47.5%と最も多くを占めた。次いで、銀行窓販が41.7%を占め、この2つのチャネルで、全体の89.2%とおおよそ9割を占めた。

直近の5年間の動きをみると、個人代理人は全体の5割、銀行窓販は4割ほどで推移している。銀行窓販は2010年に当局からの規制が強化されたこともあり、全体としては、2011年以降、その割合は減少傾向にある。

また、インターネットや電話による販売を含む直販(8.4%)もこの5年間で3ポイントほど増加している。生保各社もインターネットやスマートフォンのアプリ開発等、フィンテック(金融+IT)を活用した販売を強化している。

#### 4-保険金・給付金等の支払いの推移

(億元)



(出所) 中国保険監督管理委員会ウェブサイトの公表データより作成

2015年の生命保険の死亡保険金や満期保険金等の支払いは、前年より64.2%増加して4480億元となった。

また、健康保険の給付金の支払いについては、規模は小さいものの、前年比33.6%増の763億元に増加している。

公的医療保険において、自己負担割合が相対的に高い中国では、国が民間の健康保険、特に医療保険を社会保障体系の1つとして重要な位置づけをしている。官民協働の運営による大病医療保険を含め、医療保険の規模は急速に拡大しており、それにとまって給付金の支払いも増加している。

#### 5-主要な保険会社[2015年・国内系/外資系上位5社]

国内系生保		保険料収入 (億元)	前年比 増減率(%)	市場占有率 (%)
1	中国人寿	3754	9.4	23.7
2	中国平安人寿	2084	19.8	13.1
3	新華人寿	1119	1.8	7.1
4	中国太平洋人寿	1086	10.0	6.9
5	中国人民人寿	894	13.6	5.6
外資系生保		保険料収入 (億元)	前年比 増減率(%)	市場占有率 (%)
1	工銀安盛(仏アクサ)	235	52.8	1.5
2	友邦人寿(AIA)	126	18.9	0.8
3	中意人寿(伊ゼネラル)	92	63.7	0.6
4	招商信諾(米シグナ)	78	47.9	0.49
5	中美聯泰(米メットライフ)	75	11.7	0.48
国内系生保(計)		14868	24.4	93.8
外資系生保(計)		991	35.1	6.2
保険会社合計		15859	25.0	-

(注) 市場占有率は、生命保険会社(合計)の保険料収入に対する占有率となっている。前掲の1-生保収入保険料の推移における医療保険、傷害保険等には損害保険会社による保険料収入が一部含まれている。

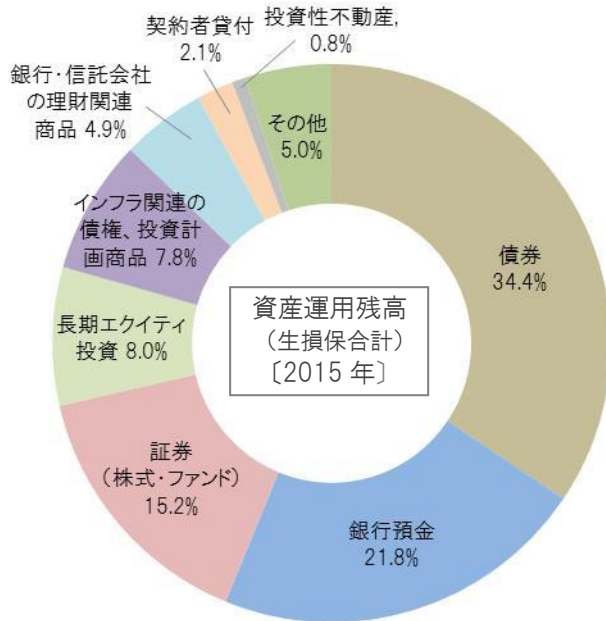
(出所) 中国保険監督管理委員会ウェブサイトの公表データより作成

2015年、国内系の生命保険会社(医療保険専門、企業年金専門の保険会社を含む)は46社、外資系の生命保険会社は28社であった。

中国の生命保険市場は、国内系生保による市場の占有率が高い。2015年の生保の収入保険料をみると、最大手の国内系生保5社のみで56.4%のシェアを占め、国内系生保全体では保険料収入の93.8%を占めている。ただし、首位の中国人寿のシェアは減少傾向にある。

一方、外資系生保は、工銀安盛、招商信諾といった、銀行の出資が50%以上の保険会社を中心に収入保険料が大幅に増加した。加えて、外資系生保全体でも収入保険料は前年比35.1%と大幅に増加した。

## 6-資産運用状況〔2015年・生損保合計〕



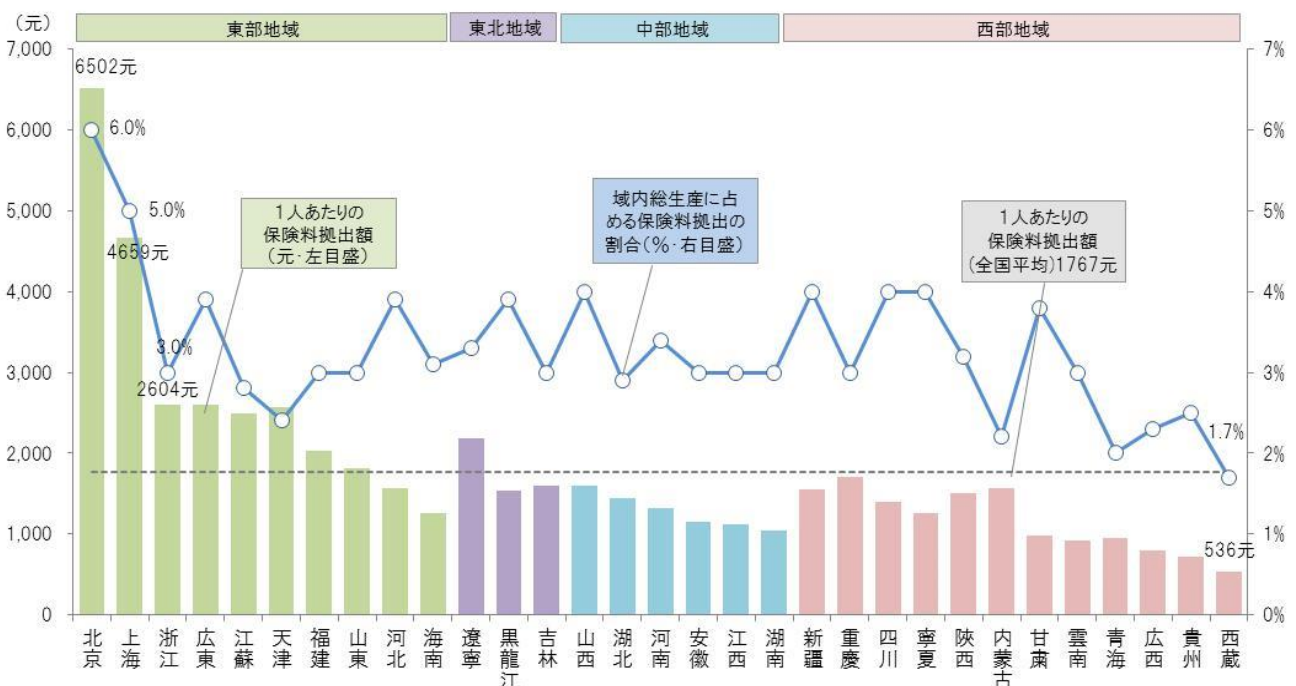
(出所) 中国保険市場年報より作成

2015年の運用資産残高(生損合計)は、11兆2000億元(約205兆円、年初より19.8%増)であった。運用は、債券(34.4%)、銀行預金(21.8%)が全体のおよそ56%を占め、インカムゲインの確保を中心とした安全性の高い資産運用に軸足を置いている。ただし、預金金利の低下等から、これらの資産の構成比は前年より9ポイントほど減少している。一方で、インフラ関連の金融商品(7.8%)や理財商品(4.9%)など利回りの高い商品への投資が増加している。

2015年の運用収益は7804億元で、利回りは7.56%、2008年以降、初めて7%台に達した。

## 7-保険の普及状況〔2015年・生損保合計〕

2015年の各地域における保険の普及状況について、「1人あたりの保険料拠出額(生損保合計)」をみると、全国平均値は1767元(約32000円)で、2014年より288元増加した。地域別でみると、経済が発展し、所得の高い東部地域の普及が最も進んでおり、中でも北京市、上海市が突出している。東北地域、中部地域、西部地域に属する多くの地域では全国平均値の1767元以下であるのに対して、1人あたりの保険料拠出が最も多い北京市(6502元、約12万円)は全国平均値の3.7倍の規模となっている。また、1人あたりの保険料拠出が最も少ない西藏(チベット)自治区(536元、約1万円)は全国平均値の約1/3となり、北京市の1/12にとどまるなど、地域によって、普及の格差は大きい。



(注)「寧夏」回族自治区の2015年の1人あたりの保険料拠出は未公表のため、2014年のデータを記載している。

(出所) 中国区域金融運行報告(全国)、地域毎の金融運行報告より作成